

# 自己評価表

愛媛県立新居浜南高等学校

学校番号(6)

教育方針	個性豊かで広い視野を持ち、心身ともに健全な人間を育成する。	重点	1 個性や適性に応じた科目を主体的に学習し、自己実現に努力する態度を育成する。
		努力	2 地域と連携した教育活動を推進し、社会に貢献する態度を育成する。
		目標	3 自他の人権を尊重する福祉の心を育て、地域を支える人材を育成する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策(意見)
① 組織運営等	教職員間の共通理解	教育目標を達成するために、教職員間の共通理解を図り、円滑なコミュニケーションや連携・協力体制を構築する。気軽に話ができる場と機会を設ける。	C	教職員間の共通理解は概ね図られている。より一層の教職員間のコミュニケーションを促進し、連携と協力体制の構築につながりつつある。	総合学科の特性で、職員室に常駐する教員が少ない。ICT機器の活用を促進し、情報の共有を図りながら仕事の効率化を一層進めていく。 職員朝礼の簡略化を継続し、生じた時間で年次団内等におけるコミュニケーションを一層密にしていこう。 運営委員会前の関係者の打合せを促進し、より一層の会議の円滑化を図る。 メンタルヘルスに対する共通理解を図り、ワークライフバランスを重視した働き方改革を浸透させる。 魅力的な教育活動を推し進め、学校生活の活性化を図る。 地域と連携した教育活動を図り、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。
	会議の効率化	運営委員会や職員会議、各種委員会の円滑化を図り、効果的に運営を実践する。グループウェアや校務支援システムなどを積極的に活用することで無駄を省き、スリム化を図る。	B	運営委員会や職員会議の所要時間が短縮された。職員朝礼の簡略化で小集団での打合せの時間の確保が進んだ。	
	危機管理意識の高揚	学校の安全管理に関する教職員の危機意識を毎月定例の職員会議において喚起する。	B	衛生委員会で提案事項を吟味し、職員会議で報告した。	
	職場環境の整備	教職員の心身の健康に配慮された、能率よく勤務できる職場環境を整備する。教職員間の業務量の多寡を調整し、働き方改革を進める。超過勤務時間の多い教職員数の前年比50%減を目指す。 A: 50%以上 B: 40%以上 C: 30%以上 D: 20%以上 E: それ以外	E	教職員の心身の健康について、管理職から個々への声掛け等を通じて問題点を把握するように努めた。 業務量の多寡を調整が進まず、超過勤務時間の多い教職員(超過勤務が月80時間以上)が前年とほぼ同数であった。	
	南高満足度の向上	魅力ある学校づくりに努め、南高へ入学してよかったと思える生徒の増加を図る。学校評価アンケートでの評価を前年比10ポイント増を目指す。A: 10ポイント以上 B: 8ポイント以上 C: 6ポイント以上 D: 4ポイント以上 E: それ以外	B	生徒・保護者・地域の方々からの学校への信頼度が向上し、「満足度」も高い評価を得ている。	
② 教育課程・学習指導	教育課程の充実	各系列の特色を生かし、生徒の進路実現のために充実した教育課程を編成する。系列集会を月1回以上実施するなど、系列の特色をより鮮明にして、生徒の活動の場を設定する。	B	八つある各系列の特色を生かした教育課程を編成している。各系列における教育の充実や2年次生と3年次生の交流を図ったり、特色を出したりするために系列集会を実施することができた。	系列を中心とした学習の推進は、総合学科としての大きな特色であり、系列集会を導入している。今年度は、実施内容や取組について、系列の趣旨や実施内容を練ることで、系列の特色を生かした活動ができ充実させることができた。今後は、系列集会の実施について、学校行事等と連携させ、より効果的で最大限の成果が得られるように実施時期や回数を精選するなどの見直しを図りたい。 国立大学への進学者を増やすなど、生徒の可能性を広げるような学習指導及び進路指導をより充実させていきたい。 「生徒一人一台端末」の活用については、教職員間に多少の温度差はあるものの、進捗状況は良好である。適切な場面でより効果的な活用ができるように教材研究を行うなどGIGAスクール構想の実現へ向け確実に前進できるよう取り組んでいきたい。 生徒の授業に対する評価は高い。来年度以降も、ICT機器を積極的に活用するなど、さらに努力したい。 校内研究授業を計画的に実施するなど、教員相互の授業改善に対する意識は高い。各教科での相互参観授業では参観シートを導入し、フィードバックする方法を工夫しているが、来年度からも続けていきたい。また、今年度は、コロナ禍で思うように実施ができなかった公開授業や相互参観授業を行うことができ、校内外への発信及び授業アンケート等と併せて、今後も授業改善につなげられるようにしていきたい。
	学習指導の充実	学習方法の指導などガイダンス機能の充実を図るとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣の確立を図る。	B	学び方の指導も含めて、細やかな学習指導ができた。生徒の学習の様子や成果を認めることで、学ぶ意欲の向上を図ることができた。	
		課題テストや小テストを実施し、「やればできる」ことを生徒に実感させ、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	B	各教科科目で課題テストや小テストを実施するなど、生徒の学習意欲の向上に資することができた。Google for Educationを全校で導入しており、各種ツールを活用して個別にも対応することができた。	
	授業の充実	生徒一人一人に対して、生徒の実態に応じた個別指導を徹底し、生徒の学力の定着と向上を図る。学校評価アンケートでの授業満足度100%を目指す。 A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 70%以上 E: それ以外	B	生徒の発達段階や学習の到達状況に応じた丁寧な個別指導ができた。特に、3年次生に対しては、就職指導、進学指導ともに充実した指導ができた。授業評価アンケートでの評価は、95.5%であった。	
③ 生徒指導	指導体制の確立	全教職員の共通理解の下、一貫性のある指導ができる組織的な体制を確立し、指導を行う。毎月1回、年次ごとの指導を行う。	B	全教職員の共通理解はできていると思うが、いざ指導するべき場面となると、対応に少し差がある場合があった。	出席率に関して、皆勤者の数で基本的な生活習慣の確立を判断することについては、やや問題があるように感じる。長期欠席者(年間30日以上欠席)を限りなく0に近づけることと正当な理由のない遅刻・欠席者をなくすことを考えていきたい。
	基本的な生活習慣の確立	高校生らしい身だしなみで生活できるように、教育活動全般において継続的な指導を行う。また、しっかりとした規範意識の醸成を図る。身だしなみ指導合格生徒100%を目指す。 A: 95% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 70%以上 E: それ以外	B	身だしなみ指導1回目合格率は、1年次92%、2年次93%、3年次96%、全体平均94%であった。事前の呼び掛けを行っているため、準備はよくできている。指導後の日常での学校生活では、継続的に正しい身だしなみができていない生徒も見受けられる。平素から細かな指導がもっと必要だ。	
		出席率の向上を目指し、遅刻や欠席の目立つ生徒への段階的指導を行うとともに、家庭や関係機関と連携し、生活習慣の改善を促す。1か年皆勤生徒150人以上を目指す。A: 150人以上 B: 140人以上 C: 130人以上 D: 120人以上 E: それ以外	E	1か年皆勤者数、1年次30名、2年次28名、3年次26名、合計84名であった。全体の1か年皆勤率は26%であった。今年度は、欠席・遅刻生徒や転退学者が例年になく多かった。体調不良の際、無理をしないという指導が定着してきているため、皆勤が良いことだという風潮が薄れてきているように感じる。	
		校内外で活気ある明るい挨拶ができるようにホームルームや部活動等で指導を図る。明るい挨拶と返事ができる生徒100%を目指す。 A: 95% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 70%以上 E: それ以外	B	ほとんどの生徒が気持ちの良い挨拶ができるが、一部の生徒は相手が挨拶しても返すことができないこともある。挨拶がコミュニケーションの始まりであることを、機会あるごとに再確認させる必要があると思う。	
	家庭・地域との連携	本校の生徒指導の方針や取組について、家庭・地域・関係機関に理解していただくとともに、連携しながら指導を行う。	B	ほとんどの家庭は学校での生徒指導に協力的ではあるが、一部の保護者においては、放任主義であったり、やや理解に欠ける保護者もいた。	

※評価は5段階(A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策(意見)
④ 進路指導	進路実現	生徒一人一人の進路希望の把握に努め、教職員の共通理解の下、3年間を見通した進路指導を行う。進学・就職とも希望する進路実現100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	A	全教職員協力の下、ほとんどの生徒が希望する進路実現を果たすことができた。就職に関しては、公務員4名を含む就職希望者40名が内定をいただいた。進学に関しては、進学希望者66名全員が推薦・総合型選抜で早期に合格した。	今年度は国公立大学を受験した生徒が1名であった。早期に生徒の進路が決定するのはいいことであるが、実力があるにもかかわらず、努力をせずに行けるところに行こうとする生徒が年々増えている。また、保護者の意向が生徒の進路決定に大きな影響を及ぼしている。主体的に学習し、高い目標に向かってチャレンジする生徒を育てていきたい。そのためにも、来年度の新入生から導入するスタディサプリをうまく活用したい。
	面接指導の充実	就職試験や進学の推薦入試等に対応できるマナー指導や面接指導等を全教職員の理解と協力の下、実施する。	B	夏季休業中に就職希望者対象の面接指導を全教員で行ったり、外部から専門の方を招いてマナー指導を行い、生徒の進路実現に大きな役割を果たした。	就職に関しては、今年度より求人票をタブレット端末で見られるソフトを導入し、保護者も自宅で見られるようになった。来年度は、就職指導だけでなく、進学指導においても進学情報や進路ガイダンスの案内などもタブレットを用いて配信できるようにしていきたい。今までの紙媒体での案内とデジタルでの案内のハイブリッド型を用いて、適切な情報を提供していきたい。
	適切な情報提供	進学や就職の情報を適切な時期に本人や保護者に提示し、周知に努めるとともに、進路指導室・進路資料室に、進路に応じた資料等を準備し、活用を図る。	C	オープンキャンパスや各種ガイダンスなどの案内は、クラスや進路室前に掲示していたが、情報が十分に伝わっていないことも見受けられた。	
⑤ 特別活動・ボランティア活動	ホームルーム活動	各年次に合わせた適切なホームルーム活動の主題を設定して、計画的に実施する。	B	各年次で計画的なホームルーム活動が実践できている。反面、クラス独自のテーマ設定時数が少なく、担任の個性を生かしたクラス経営や生徒間の相互理解を深める機会の減少に課題が残る。	人権・同和教育や保健に関するホームルーム活動など、地域に根差した実践的な活動ができており、今後も継続し、さらに発展させたい。また、2・3年次では系列ごとに分かれた学習活動が中心となるため、ホームルーム単位の活動減少に伴うクラスへの帰属意識が低下するという課題がある。特にこれらの年次では、ホームルーム活動の主題設定を適切かつ計画的に取り組みように指示していきたい。
	学校行事・生徒会活動	生徒が学校行事や生徒会活動に主体的・積極的に参加し、教師と生徒が連帯感を持って取り組む諸行事の実施を図る。学校評価アンケートでの学校行事満足度100%を目指す。A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	B	COVID-19が感染症5類指定に移行したことで、手探りながらも学校行事等を再開することができた。ただし、全てを以前と同様に戻すのではなく、新たに在り方を生徒と教員と一緒に考え、実践できたことは高く評価できる。生徒会活動も、主体的に取り組み組織として成長をみせた。	生徒会役員選挙や各種学校行事の実施に当たり、生徒は主体的に活動し、取り組むことができた。その分、事前の準備に取り組む生徒に、教員が粘り強く対応・支援する場面もあったが、今年度また種が着実に成長して新年度の活動が充実するよう支援していきたい。また、生徒会の組織変更にも取り組めたので、様々な場面で経験値を上げながら活動の充実を図りたい。
	部活動	生徒の健康面や安全面に留意し、好ましい人間関係の育成などに配慮した運営を図る。部活動加入率90%以上を目指す。原則、平常日・週休日に各1日休養日を設け、効率的な運営を目指す。A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:80%以上 E:それ以外	A	COVID-19の感染症5類指定の移行に伴い、多くの大会や発表会が以前の形で実施された。経験不足等からくる、人間関係の構築には課題が残る場面も見られたが、精一杯、日頃の活動の成果を表現できたと思う。加入率は、95.2%。	生徒会役員選挙や各種学校行事の実施に当たり、生徒は主体的に活動し、取り組むことができた。その分、事前の準備に取り組む生徒に、教員が粘り強く対応・支援する場面もあったが、今年度また種が着実に成長して新年度の活動が充実するよう支援していきたい。また、生徒会の組織変更にも取り組めたので、様々な場面で経験値を上げながら活動の充実を図りたい。
	ボランティア活動	ボランティア活動参加数延べ1,000名以上を目標に、中心として活動する地域共創系列やユネスコ委員会、VYS部、家庭クラブ等を生徒会が支援する形で、全校生徒の意識の高揚を推進する。A:1,000名以上 B:950名以上 C:900名以上 D:850名以上 E:それ以外	E	ボランティア活動全体としては、まだ主催者側からの制限が多く、以前のような活発な状況までは回復していない。ただ、VYS部や地域共創系列、ユネスコ委員会、家庭クラブだけでなく、サイクリング同好会や多くの有志生徒が地域と連携しながら主体的に取り組むことができた。ボランティア活動参加延べ人数は、337名。	これまで大きな制限を受けていた学校行事や部活動、ボランティア活動等が順調に再開された一年であった。ただ、ここ数年の経験を生かし、検討すべき事は早急に対応しながら、生徒の安心・安全が確保された教育活動の実践に引き続き学校をあげて取り組んでいきたい。
⑥ 保健管理	保健活動	学校運営組織の中に学校保健の分野を適切に位置付け、全教職員が役割を分担して活動できる体制を構築する。	C	コロナ禍が落ち着いて通常の学校保健活動が行われた。衛生委員会のアンケートなどを活用し教職員の要望等を聞き、職場環境の改善に取り組めた。	全教職員が、心身ともに健全に働くことができる環境が必要である。学校評価を行うたびに、管理職・学校に対しての苦情のようなものが提出されるが、良い職場づくりのためにはいいがたく、文句の場となっている。一人一人がもう一度気持ちよく働くことができるにはどうすればいいのか考える必要がある。教職員一丸となったからこそ「よい南高」ができたのであり、そこが崩れれば、学校全体がまた逆戻りしそうな気がする。
	健康管理	健康診断と事後処置を計画的に実施し、健康診断で発見された異常の事後措置・指導の受診率100%を目指す。A:100% B:90% C:80% D:70% E:それ以外	D	歯科検診の事後措置は行っているが、視力検査の事後措置に対し3年次生は進路が絡んで受診しているが、1・2年次生の受診が進んでいない。	これまで大きな制限を受けていた学校行事や部活動、ボランティア活動等が順調に再開された一年であった。ただ、ここ数年の経験を生かし、検討すべき事は早急に対応しながら、生徒の安心・安全が確保された教育活動の実践に引き続き学校をあげて取り組んでいきたい。
	安全・衛生・清掃美化	美しい環境づくりの意識を持ち、毎日の清掃に、開始から終了までの10分間一生懸命取り組める生徒100パーセントを目指す。A:100% B:90% C:80% D:70% E:それ以外	C	学期末の評価の中では生徒が清掃をしないという意見が見られる。全体に言えるのが、部分的なのが、授業と同じで監督者の取組によるところが多いのではと考えられる。	また、部活動の指導においては、顧問の配置・負担軽減を図り、今と変わらない活動の提供に努める体制を構築したい。
⑦ 人権特別・支援教育	教職員研修	全教職員が人権・同和教育及び特別支援教育についての意識を高め、指導の力量を身に付けていくための研修を実施する。	C	人権・同和教育、特別支援教育の各分野で最新の課題などを教職員で共有する研修を実施できた。専門的な研修により、全教職員の指導力を向上させることができた。	次年度は以上のような改善方策により、生徒のバランスのとれた心身の育成を目指し、より一層、特別活動の在り方を研究し、実践していきたい。
	生徒の主体的な取組	各種の学校行事や人権委員会の活動を通して、生徒の主体性を育みながら人権意識の高揚を図る。	B	現地研修会を各年次で実施し、主体的な生徒の学びを人権・同和教育ホームルーム活動でフィードバックすることで、全ての生徒の人権意識の高揚に効果的な取組ができた。	本年度、担任の先生方の多忙さを考えて人権・同和教育ホームルーム活動の事前研修などの時間が十分とは言えなかった。次年度は、実施に向けての研修の時間の取り方や在り方を見直したいと考えている。また、教職員のアンケートでは教職員研修などへの評価が低下していたことを踏まえ、研修内容を見直し、研修の意義などを十分に浸透させたい。研修後には効果などを具体的に測る方法を考えていきたい。さらに、人権委員会の活動では、活動内容について全教職員、全校生徒で共有し、活動や成果が伝わるようにして一層の人権意識の高揚に努めたい。進路保障においては、差別を見抜く力を養わせ、適性にあった進路実現ができるよう啓発していきたい。
	進路保障	様々な困難な条件の下にある生徒に対して、家庭・地域・関係機関等との連携を図りながら進路保障の徹底に努める。	B	オープンスクールや応募前職場見学などを利用し、進路先について情報を十分に得て適切な進路を選択することができた。保護者との連携を密にすることで各自の進路目標を達成することができた。	
⑧ 図書・研修	現職教育	教育公務員としての自覚と使命感の高揚に資する研修等、必要な研修を必要な時期に必要な対象者が受けられるように情報を周知するとともに、計画的に実施する。	C	校内外の各種研修の案内について、グループウェアの電子掲示板を利用して、周知を図った。各課と連携しながら、外部講師による研修会の実施について検討していきたい。	今年度と同じく研究授業や11月の相互参観授業週間の実施など、生徒の深い学びの実現に向けた授業改善を行うために、引き続き研修の機会を設けていきたい。研究授業の参観者を増やすため、電子掲示板により周知をしていきたい。希望する研修内容があれば、愛媛県総合教育センター、大学や専門学校の出張講座や新居浜市の出前講座などの活用を考えていきたい。
	教科指導の充実	互見授業や研究授業を実施し、授業を校内や地域に広く公開することで、教員の指導力や生徒の学習活動の向上に努める。	C	年度始めに予定されていた教科の研究授業は、計画通りに実施することができた。互見授業や研究授業を充実させ、さらなる授業力向上を目指していく必要がある。	生徒の興味関心に合わせた新刊図書の購入、各系列の学習内容に対応した図書資料の充実、図書委員会を中心とした読書推進活動に取り組んでいく。昼休みや放課後に図書館を訪れ、図書館の存在そのものがのびのびと過ごしている生徒もいる。生徒の安心できる居場所としての機能を高めたい。
	読書意欲の向上	朝読書の充実をはかることで、生徒の読書への意欲を高める。また、使いやすい学校図書館環境の一層の充実を図る。	C	各年次とも朝読書の時間は静かに本を読み、落ち着いて過ごしている。年間図書貸出数を見ると、年次が上がるにつれ、冊数が減少しているため、本の魅力発信方法について考えたい。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策(意見)
ICT	機器の整備と活用	全教職員が「生徒一人一台端末」を活用した教科指導を実践し、生徒の学力の伸長を促すとともに学習意欲の増進を図る。また、教職員の指導力の向上ために全体的な研修や個別の情報交換を進め、GIGAスクール構想を推進する。	C	生徒一人一台端末が貸与されてから4年が経ち、生徒教員ともにICT機器を使用した授業に慣れつつある。学校評価アンケートの該当ポイントも着実に伸びてきている。	HPIにおける学校行事予定等の情報開示については、各課と連携を図り、決定次第速やかに発信できるよう心掛けたい。また、ICT機器等の校内研修を充実させ、各教職員の情報リテラシー(セキュリティの観点を含む)の強化を図りたい。生徒一人一台端末は現在においても利用が充実していると感じているが、利用方法について、生徒課等と連携を図り、学力の伸長、学習意欲の増進のための、よりよいツールとなるよう指導していきたい。
	ホームページの整備と活用	学校行事等、学校の情報をタイムリーに発信し、学校の様子や生徒の活動状況を広く周知する。生徒アカウントを作成し、生徒も発信していけるようにする。	C	学校HPIより、学校行事や学校の活動を多く配信でき、開かれた学校作りの一助となった。反対に、学校行事予定等の情報開示が遅れることがあった。	
⑩教育相談	教育相談の周知徹底	「教育相談室のお知らせ」を毎月教室掲示し、「教育相談だより」を学期に1回以上発行することで、教育相談活動の周知と理解を図る。また、教育相談室を活用して気軽に相談できるように工夫する。	B	「教育相談室のお知らせ」を毎月教室掲示し、「教育相談だより」を学期に1回以上の発行を実践することができ、教育相談活動の周知を行った。結果、お知らせを見て生徒が来室するなど、教育相談室の活用につながった。	教育相談室への来室若しくは教育相談課員などへの相談が数件あり、クラス担任や部活動の顧問への相談が入口となることが多かった。教員間の連携や関係各所への接続が、教育相談課の重要な役割であることを認識し、更なる改善に生かしたい。
	生徒の状況把握	各年次主任、ホームルーム担任、スクールライフアドバイザーとの連携を密にして、生徒の状況把握に努め、必要であれば早期に対応する。	B	各年次主任、ホームルーム担任、スクールライフアドバイザーの連携を密にして、生徒の状況把握に努め、外部機関との連携も含めて、比較的早期に対応できた。	生徒の状況把握に関して、今年度デジタル化した「いじめや悩みに関するアンケート調査」は、定期実施しているもので相談が何件もあり成果があった。通年回答することができる常設ページの方には、今年度相談件数が0件であったため、来年度からは廃止を検討してもよいと思われる。
	教職員間の情報交換	問題や悩みを抱える生徒や保護者について、連絡会を設けるなどして、教員間の共通理解に努める。	B	問題や悩みを抱える生徒や保護者について、職員会議での全体周知や、関係者での連絡会など、状況に応じた形で教員間の共通理解に努めた。	今年度開始した教職員を対象とした生徒情報についてのアンケート調査は、教育相談課として新たに把握できた情報があり、全体への情報共有のために有効であると思われる。共有方法、情報整理の方法に改良を重ねながらより良い実施をしていきたい。
住⑪民保等護と者の、連携地域	保護者への情報提供	南高通信やPTA通信の発行、保護者懇談会や家庭訪問などの実施によって、学校での生徒の状況が保護者によく分かるように情報の提供に努める。また、PTA活動など保護者の学校行事への参加の再開に努める。	C	南高通信はほぼ予定通り発行できた。一方、ホームページについては有効な活用という面から課題が残った。PTA活動については、研修旅行や文化祭などでの活動ができた。	PTA活動について早い段階での情報提供を行い、各会合や行事への参加を拡大したい。地域との交流については、校内の他課との連携及び校外諸機関との連携を進められるような工夫を行事や授業に取り入れたい。
	地域との教育活動	地域の行事に積極的に参加・協力したり、地元中学校や公民館等関係諸機関との交流を積極的に行ったりすることで、地域に生き、地域に貢献できる生徒の育成を図る。	B	コロナ禍が落ち着き、再開できた活動がある。特に、角野地区の防災会の開催や参加ができた。	
探⑫究産の社時・間総合	キャリア教育の推進	「産業社会と人間」「ライフスタディⅠ」「ライフスタディⅡ」に主体的に取り組ませることで、望ましい職業感や就労観を育み、インターンシップ、バイターンシップの積極的な導入を図り、キャリア教育の推進をさらに加速する。	C	コロナ禍後、企業見学、上級学校・施設訪問、インターンシップ(工業)、ライフスタディⅡ発表会など体験的な学びの実践が行えるようになってきた。そのようなことから、目標達成に向けた成果が見えてきた。ただ、バイターンシップは希望業種と対応業種に偏りがありミスマッチとなった。	キャリア教育を推進し、さらに充実を図るため、2年次生でのインターンシップに代わる取組を模索したい。また、ライフスタディⅡ発表会などもいただいた意見等を参考にして、より良いものにしていきたい。また、バイターンシップについては各業界とも連携を模索し試行錯誤を続けたい。
⑬事務管理	親切的な対応	来訪者及び電話への対応を親切かつ丁寧に行うことで、生徒や保護者、関係者からの信頼を得ることができるよう努める。	C	来訪者及び電話への対応を親切かつ丁寧に行うことができた。	来訪者及び電話への対応を親切で丁寧な対応を引き続き行う。生徒の安全・健康のため施設や設備の適切な管理運営、教育・衛生環境の改善等を、予算を考慮しながら対応していきたい。
	適切な事務処理等	経費の節約に努め、適正かつ能率的な事務処理を行うとともに、施設や設備の適切な管理運営を行うことで、学校の教育活動の効率化を図る。	C	生徒の安全のため施設管理を心掛けるとともに、適正な事務処理及び経費の節約に努めることができた。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。